

2 0歳児から5歳児の教育課程(全体的な計画)

0歳児(57日頃～3か月頃)

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・大好きな大人からあやされたり、声を掛けられたりすることを喜ぶ。 ・保育者に欲求を受け止めてもらい、親しみと安心感をもつ。 ・一人一人の安定した生活リズムで気持ちよく過ごす。
学びの芽生え	思考 言葉 創造	<ul style="list-style-type: none"> ・鼻から出ていた音声喉からも出るようになり、母音に喉子音が結び付いた発声も聞かれるようになる。 ・光(明るい光、優しい光など)に反応する。
人との関わり	協同 信頼 規範	<ul style="list-style-type: none"> ・不快感が芽生え、空腹になったりおむつが汚れたりすると、目覚めて泣く。 ・抱かれて、泣きやんだり安心した表情になったりする。 ・音や話し声のする方に顔を向けようとする。 ・あやしたり話し掛けられたりするとよく笑うようになる。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣 運動	<ul style="list-style-type: none"> ・1日の中で眠りと覚醒が何度も繰り返され、昼夜の区別がはっきりしない。 ・よく眠っているように見えても、脳波の半分は眠っていない状態なので、眼球が動いていたり、顔や手指がピクピク動いたりする。 ・舌の前後の運動で、ミルクをよく飲むようになる。 ・手の指を硬く結んでいる状態から、徐々に握りがゆるくなり、手のひらに置かれたものを握るようになる。 ・首がすわり始める頃は、仰向け姿勢で正面を向くようになり、自分で少し首を動かして左右を見回すようになる。 ・うつ伏せの姿勢にすると、頭を少し持ち上げる。 ・引き起こしに頭が少しずつついてくるようになる。 ・仰向け姿勢で手と手、足と足を触れ合わせるなど、正中線に向けて内側方向に対称的な動きをするようになる。 ・手と手、手と口の協応ができ始める。 ・周囲の動くものを目で追う。

0歳児

<援助のポイント>

- ・保育者の愛情豊かな受容によって、情緒が安定していく。担当の保育者を決めて、愛着関係を育むとともに、一人一人の生活リズムに合わせて生理的要求を満たし、気持ちよく過ごせるようにする。
- ・温度変化に弱く、体温の失調(発熱、低体温)や新陳代謝の異常を起こしやすいので、細やかな室温、換気、湿度調節をする。音や光などを考慮し、静かな環境で安定して過ごせるようにする。
- ・病気に対する防衛機能が未発達なので衛生面に留意し、体調の小さな変化に気付くようにする。
- ・一人一人の授乳時間や間隔を把握し、おおむね3時間ごとを目安に授乳する。
- ・自分で寝返りをするようになるまでは、仰向けで寝かせ、睡眠中の窒息、突然死などの事故予防をしっかりと行う。
- ・2か月頃から腹ばい姿勢にして過ごす時期が始まる。腹ばいや寝返りの始まる時期は、特に危険なため、目を離さないようにし、下は硬い状態にする。

<家庭との連携>

- ・連絡帳のやり取りやお迎えの時間に温かく対応し、保護者との信頼関係をつくっていく。
- ・家庭での様子を聞いたり、保育中の睡眠、授乳、排せつ、機嫌、行動の様子などを伝えたりして、情報を共有していく。
- ・ミルクの量や授乳にかかる時間は個人差が大きいため、個々に合わせて哺乳びんの乳首のサイズなどを、保護者と確認していく。

0歳児（3か月頃～6か月頃）

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・あやされたり、声を掛けられたりすると喜び、自分でも声を出す。 ・飲む、寝る、遊ぶの安定したリズムで機嫌よく過ごす。
学びの芽生え	<p style="text-align: center;">思考 言葉 創造</p> <ul style="list-style-type: none"> ・唇を開いて音を出せるようになり、音節の繰り返しが始まる。
人との関わり	<p style="text-align: center;">協同 信頼 規範</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な人の顔が分かり、あやされると声を出してはしゃぐ。 ・初期の人見知りが始まる。 ・自分から相手にほほえみかけるようになる。 ・周囲の親しい大人が分かるようになり、泣いても保育者があやすと安心して笑顔になる。
生活習慣・運動	<p style="text-align: center;">基本的な 生活習慣 運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・胃の入口がしっかりして、授乳後の溢乳が減ってくる。 ・舌の前後の運動に加えて顎の動きを連動させて、母乳やミルクを飲む。 ・よだれが出始める。 ・果汁やスープなどの準備食を開始する。 (目安は、授乳リズムが3時間半～4時間、体重が7kg前後になり、支え座りをするようになる頃) ・味覚が芽生え、味の違いが分かり始める。 ・眠っているときと目覚めているときがはっきりと分かれ、昼夜の区別が付き始めてリズムが定まってくる。 ・体温調節は安定し始めるが、まだ、周りの温度の影響を受けやすい。 ・腹ばいにするとう肘で上半身を支えることから、徐々に上体を持ち上げるようになる。 ・目と手の協応が始まり、見たものに手を伸ばすようになる。 ・体の正中線上で両手を絡ませる。 ・親指が外側に出て、物をしっかりと握れるようになる。 ・足で空間を蹴るようにして腰をひねり、寝返ろうとする。 ・引き起こしに頭が遅れないで上がり、両足も対称的に腹部に引き寄せるようになる。

<援助のポイント>

- ・必要に応じてクッションなどを用意して、腹ばいや一人座りを援助していく。
- ・着替えや沐浴、おむつ交換などで身体の健康を保ち、「快」の感覚を育てる。
- ・なめる、かむ、しゃぶるなどで感覚器官が発達する時期なので、玩具などで十分に満足できるようにするとともに、使う物は個別にし、使ったらその都度、清潔にしておく。
- ・個人差に応じて睡眠がとれるように環境を整える。
- ・優しい言葉、声、まなざし、笑顔での働き掛けなどを通して、子供の情緒の安定や人との心地よい関わり、周囲への関心を育んでいく。

<家庭との連携>

- ・昼は起きて明るい所で生活し、たっぷり遊んでよく飲み、夜は暗くして眠るなど、生活のリズムをつくっていく大切さを、個人差に応じて伝えていく。
- ・成長の変化が目覚ましい時期である。保護者と成長を喜びながら、家庭で気を付けること（子供の手の届くところに危険な物は置かない、子供は大人が予想する以上に動くことを考慮する、起きているときには応答的に関わる、準備食の内容やタイミングなど）を知らせ、保護者が安心して子供の動きたい欲求に応えたり、離乳食への移行を行ったりできるようにする。

0歳児（6か月頃～9か月頃）

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・保育者の語り掛けを喜び、自分でも声を出すことを楽しむ。 ・保育者と十分に関わり欲求を受け止めてもらい、親しみをもち安定して過ごす。 ・腹ばいや寝返り、座位など、体全体を動かして遊ぶことを楽しむ。 ・いろいろな食品の味や形態、スプーンに慣れる。
学びの芽生え	思考 言葉 創造	<ul style="list-style-type: none"> ・物を落とすなど、気に入ったことを繰り返して遊ぶ。 ・名前を呼ばれると振り向く。 ・引出しの中の物を引っ張り出して遊ぶ。 ・言われていることをだんだんと理解できるようになってくる。 ・「アバババ」など言葉を繰り返すことで音をつなげて話す。 ・大人の口元を見てまねる。 ・戸外に出ることを喜ぶ。 ・機嫌がよいと一人遊びをする。 ・曲に合わせて体を動かす。 ・周囲の物を触ってみたり口に持っていったりする。
	人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・人のまねが上手になってくる。 ・同じことを何回も繰り返すことを喜ぶ。 ・知っている人を見ると抱いてもらいたがる。 ・いやいや、バイバイなどの動作をする。 ・要求があると声を上げる。 ・人見知りをしたり後追いをしたりする。 ・つくり笑いや愛想笑いをする。 ・名前を呼ばれると応じる様子がある。 ・人の動きを目で追う様子がある。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・大人が手を添えるとコップを持って飲む。 ・椅子に座って食べる。 ・前歯で食いちぎって食べたり、舌を使ってつぶして食べたりする。 ・午前と午後、大体同じ時間に寝起きをするようになる。 ・背中を反らして手足を上げる。（グライダーポーズ）
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・うつ伏せの状態でも爪先で床を蹴り、反対の手で体をねじってお腹を中心に左右に回転する。（ピボットターン） ・寝返り、はいはい、お座り、つかまり立ちなど活発に動くようになる。 ・支えて立たせると足を踏ん張る。 ・指先で物をつまんだり、手を打ち合わせたりする。

<援助のポイント>

- ・安全で活動しやすい環境の中で、はう、つかまり立ちをする、座るなどを十分にできるようにする。
- ・食事に対する意欲が徐々に見られるようになってくるので、手に持てる物は持たせるようにする。また、保育者が先回りせず、食べたい物への指差しなど子供からの要求を待ち、子供の意思や意欲が高まるようにしていく。
- ・触ったものを口に運ぶ時期なので、安全と衛生に留意しながら、十分な探索活動ができる環境を整える。
- ・遊びや生活を通して、具体的に身の回りの物の名前、動作などを語り掛けていく。
- ・人見知りや後追いをする時期である。子供が不安を表したときは、抱きしめるなど温かく受け止めて子供が安心感をもてるようにする。

<家庭との連携>

- ・ピボットターンの際、爪先で蹴るという行動をたくさんすることが、その後のはいはいや歩行に向けて重要になる。また、衛生、安全面に気を付け、子供が十分に動く楽しさを味わうことの大切さを伝える。
- ・離乳食を進めるに当たり、家庭でもアレルギー反応などがないか確認してもらい、連携を取り合う。
- ・母子免疫が消滅する時期であり、発熱など病気感染が頻繁になるため、病気の予防法や知識などの保健指導を行っていく。

0歳児（9か月頃～12か月頃）

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な人やものに対する興味や関心をもち、探索活動を楽しむ。 ・保育者と十分に関わって、欲求を受け止めてもらい、親しみをもちながら安定して過ごす。 ・はいはいをする、はいはいから座位になるなど、体全体を動かして遊ぶことを楽しむ。
学びの芽生え	<p>思考</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いないいないばあ」をして、見えなくなった大人が出てくるのを期待する。 ・自分でやってみたい気持ちが芽生える。 <p>言葉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「パパ」「ママ」などの発語が見られる。 ・要求したり援助を求めたりするときに、周りの関心を引こうとして発語する。 <p>創造</p> <ul style="list-style-type: none"> ・容器に物を入れる、かぶせる、載せる、合わせるなどをするようになる。 ・自他を区別できるようになってくる。 ・物を布などで隠すと中身を確認しようとする。 ・高さ、深さ、奥行き、裏側などを探ろうとする。 ・クレヨンを持って左右の往復運動をし、なぐり描きが始める。
人との関わり	<p>協同</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手のしていることに興味を示し、自分もしようとする。 ・相手から「ちょうだい」と求められると物を渡そうとする。 ・物を打ち合わせたり積んだりする。 <p>信頼</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の子供が持っている物に手を出したり、相手に物を渡したりする。 <p>規範</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いやいやをしたりバイバイをしたりする。 ・褒めてもらおうと喜んだり、叱られたことが分かったりするようになる。 ・大人の言葉のほとんどを理解し、要求された行動をしようとする。
生活習慣・運動	<p>基本的な生活習慣</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手づかみで食べようとする。 ・コップを両手で持って飲む。 ・大人がスプーンを持つ手に、手を添えてくる。 ・起きている時間が長くなり、時間帯が少しずつ1回寝に近づく。 ・つかまり立ちをしたり、伝い歩きをしたりする。 <p>運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手押し車や箱などを押しながら歩く。 ・意図的に物を投げたり置いたりする。 ・両手で物を持ち、手渡す。 ・はいはいや高ばいで階段の上り下りをする。 ・はいはいからお座りが自由にできるようになってくる。 ・臥位、座位、つかまり立ち、伝い歩きの間で自由に姿勢を切り換えることができ始める。

<援助のポイント>

- ・手、指、足腰を使って探索活動を十分にできるようにする。
- ・自分の意思をもち始め自分でやりたがる時期なので、子供の主張をある程度かなえてから、大人の意図する方向に気持ちを向けていくようにする。
- ・保育者が子供の発見を言葉にしたり、物を媒介としたやり取りを行ったりする中で、子供のできた喜びを一緒に感じ、表情や言葉で伝える。
- ・散歩に出掛け、自然や生き物に触れて楽しむ機会を多くもち、子供の関心を広げていく。

<家庭との連携>

- ・つかまり立ちや伝い歩きをするようになってくるので、しりもちや転倒などに気を付け、危険のないように注意する。
- ・そしゃく能力が獲得できるよう、「かみかみゴックン」と言いながら大人が口を動かして見せるなど、具体的な方法を知らせる。
- ・はいはいが十分ではない子供には歩かせることを急がず、はいはいの経験を重ねる大切さを発達の見通しと合わせて伝える。
- ・動いても腹部が出にくい、ひっかかりにくい、伸縮性があるなど、この時期の体の動きに応じた動きやすい服装を知らせる。

1 歳児 I 期（4 月～5 月）

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・新しい環境に慣れる。 ・保育者と一緒に好きな遊びを見付ける。 ・安心して食べたり、眠ったりする。
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・園内や園舎の散策を保育者と一緒に楽しむ中で、春の自然に触れる。 ・身近な環境の中で探索活動を十分に楽しむ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・一人遊びを十分に楽しむ。 ・自分の名前や友達の名前が分かるようになる。 ・片言が盛んになる。 ・要求をしぐさや簡単な言葉で表現しようとする。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者と一緒に絵本を見たり、絵を見ながら保育者の言葉のまねをしたりする。 ・保育者と一緒に歌を歌ったり、簡単な手遊びをしたりして楽しむ。
人との関わり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者に慣れて安心して過ごす。 ・お気に入りの物(持っている物と安定する物)がある。 ・自分の物が分かるようになる。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や同じ部屋で生活している友達に親しみの気持ちを感じる。 ・保育者に甘えたり、わがままを言ったりするなど、安心して思いを出す。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・「バイバイ」「ありがとう」などの挨拶をしぐさや言葉で行う。 ・保育者のまねをして、一緒に片付けをしようとする。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・スプーンを使って、保育者に手伝ってもらったり、自分で食べようとしていたりする。 ・おむつが汚れたら取り替えてもらい、きれいになった心地よさを感じる。 ・着替えるときに手や足を動かし、簡単な衣服を脱ごうとする。 ・昼寝が1日1回となる。 ・自由に歩くことを楽しむ。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆるやかな斜面や段差を上る、下りるなどの足腰を使った運動を取り入れた遊びを楽しむ。 ・たたく、つまむ、転がすなどの指先を使った遊びを楽しむ。 ・リズムに合わせて身体を揺すったり、手足を動かしたりする。

<指導例>

◇ **好きな遊び・好きな場所**
保育室の中で安心して過ごす。

触れ合い遊びを楽しもう

「一本橋こちょこちょ」「だいこんいっぽん」など歌に合わせて保育者と一対一で触れ合いながら遊ぶ。

<援助のポイント>

- ・家庭との連絡を密にし、個々の状態を把握した上で新しい環境の中で安心して過ごせるように、丁寧に対応していく。特に、食事や睡眠などが重要であることを踏まえ、生活の安定を図っていく。
- ・なるべく少人数で過ごし、担当の保育者との関係を深め、安定して遊べるようにする。食事の席、布団の場所などの生活環境はいつも一定にし、安心できるようにする。

<家庭との連携>

- ・家庭での様子（食事、睡眠、排せつ、好きな遊び）を開き、家庭と同じように接しながら少しずつ安心して過ごせるようにする。
- ・園での様子を伝え、子供や保護者との信頼関係を深めていく。
- ・連絡帳を用いて、家での様子を伝えてもらったり、園での様子を伝えたりしていく。（通年）

1歳児 Ⅱ期（6月～8月）

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・部屋や保育者に慣れ、一人遊びを十分に楽しむ。 ・身近な物への興味や関心をもち、探索活動を十分に楽しむ。 ・保育者と一緒に夏の遊びを楽しむ。
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・室内や戸外で探索活動を十分に楽しむ。 ・探索活動を通して触れたり試したり驚いたりするなど、いろいろな体験をする。 ・砂遊びや水遊びなどを楽しみ、いろいろな感触を楽しむ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な型はめやパズルをする。 ・喃語や片言で保育者とのやり取りを楽しむ。 ・絵本を保育者と一緒に見ながら、簡単な言葉を繰り返して楽しむ。 ・簡単な二語文を話すことを喜ぶ。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者の語り掛けや指示が分かり、行動しようとする。 ・クレヨンでぐるぐる描きを楽しむ。 ・歌や音楽に合わせて手遊びや体操をする。
人との関わり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者やいつも一緒に生活している友達と安心して過ごす。 ・お気に入りの物やお気に入りの場所がある。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・“自分で”という気持ちで芽生え、やってみようとする。 ・“自分の(物)”という気持ちを持ち、伝えようとする。 ・してほしいことを動作で伝えようとする。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者に「待ってね」と言われると、少しの間、待てるようになる。 ・「おはよう」「いただきます」などの簡単な挨拶をする。 ・保育者の言葉掛けや表情で、危ないことなどに気付く。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・園生活のリズムに慣れ、落ち着いて過ごす。 ・スプーンを使って自分で食べようとする。 ・おむつが汚れていないときは便器に座ってみる。 ・ズボン、パンツを脱ごうとしたり、帽子をかぶろうとしたりする。 ・靴を脱ごうとする。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者を追いかけたり、一緒に逃げたりして走ることを楽しむ。 ・斜面、階段の上り下り、トンネルくぐりなど足腰を使った遊びを楽しむ。 ・ちぎる、破く、なぐり描きなどの手や指先を使った遊びを楽しむ。

<指導例>

◇ 砂場で遊ぶ

いろいろな感触を楽しんで遊ぶ。

園庭や散歩先で小さなものを見付けよう

園庭や園周辺の小道などで、虫や草花、猫などの「小さな生き物見付け」を楽しむ。同じ場所に繰り返し行くことで、散歩の楽しさが感じられるようにする。

<援助のポイント>

- ・気温や湿度が上がる時期なので、個々の健康状態を十分に把握し、水分補給や衣服の調節をして気持ちよく過ごせるようにする。
- ・自分でやろうとする気持ちを十分に受け止め、見守ったり、励ましたりしていく。
- ・子供の発見や驚きを保育者も一緒に受け止め、共感していく。

<家庭との連携>

- ・天候や気温の変化により、体調の変化を起こしやすいので、家庭や園での様子を丁寧に伝え合う。また、感染症や食中毒などの予防について配布物等で伝え、健康について十分配慮し合う。
- ・汗をかいたり、水遊びをしたりする機会が増えて、着替えをすることが多くなるので、着替えを多く用意してもらおうようにする。

1歳児 Ⅲ期（9月～10月）

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・身近な自然に触れ、興味をもつ。 ・保育者と楽しく関わる中で、言葉を覚える。 ・全身を使った遊びや一人遊びを楽しむ。
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な植物や小動物を見たり、触れたりして興味をもつ。 ・園庭や散歩先で探索活動を楽しむ中で、触れる、やってみる、驚くなど、いろいろな体験をする。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・小麦粉粘土や砂を使った遊びなどを楽しみ、いろいろな感触を楽しむ。 ・自分の要求や思いを簡単な言葉で伝えようとする。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者と一緒に絵本や紙芝居を見る。 ・クレヨンでなぐり描きやぐるぐる描きなどを楽しむ。 ・手遊びや歌、体操などを保育者と一緒に楽しむ。
人との関わり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者と簡単な言葉や動作のやりとりをする。 ・思いや要求を指差しや身振りで伝えようとする。 ・園内のお兄さんやお姉さんに親しみを感じ、関わってもらうことを喜ぶ。 ・保育者の声掛けで危ないことや、やってはいけないことに気付き、やめようとする。
	信頼	
	規範	
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・器に手を添え、自分で食べようとする。 ・様々な食品を食べてみようとする。 ・排せつをしぐさや言葉で知らせ、便器に座ってみる。 ・援助されながら、パンツやズボンなどを自分で着脱しようとする。 ・援助されながら、手洗いをする。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・靴を自分で脱いだり、履こうとしたりする。 ・保育者と一緒に歩く、走る、よじ登る、くぐる、跳ぶ、ぶら下がるなど全身を使った遊びをする。 ・つまむ、めくる、ちぎる、引っ張る、押すなど指先を使った遊びをする。

<指導例>

◇ たんけんごっこ

全身を使って体を動かすことを楽しむ。

一緒に絵本を楽しもう

食べ物や乗り物、動物などの絵本を選び、絵本を媒介にして語り掛け、一緒に楽しむ。

<援助のポイント>

- ・全身運動が活発になるので活動の状態に配慮し、じっくりと遊べるよう安全な環境を整えていく。
- ・子供が扱いやすい様々な素材に触れる機会をつくり、素材を使う楽しさを十分に感じられるようにする。
- ・子供の思いや要求など、伝えようとしている気持ちをくみ取り、言葉に置き換えていく。
- ・自分でやりたいという気持ちを受け止めながら、一人一人に合った援助をしていく。

<家庭との連携>

- ・行事や保育参観を通して子供の姿を見てもらい、共に成長を喜び合う。また、簡単な身の回りのことを自分でしたがるようになるので、発達の特徴や保育者の接し方を伝え、家庭でも時間や気持ちに余裕をもって接してもらうようにする。
- ・季節の変わり目で体調を崩しやすくなるので、園や家庭での子供の様子を伝え合い、家庭での食事や睡眠に十分気を付けてもらうようにする。

1歳児 Ⅳ期（11月～12月）

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・要求を言葉で伝えたり、言葉を使うことを楽しんだりする。 ・保育者と一緒に模倣遊びを楽しむ。 ・全身を使って遊んだり、簡単なリズム遊びをしたりする。
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な自然や小動物に触れ、親しむ。 ・積木やパズルなど身近な玩具に興味をもって遊ぶ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達と簡単な言葉のやり取りを楽しむ。 ・保育者と簡単な挨拶を試みる。 ・好きな絵本や紙芝居を読んでもらうことを喜ぶ。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな素材に触れて遊ぶ。 ・歌や手遊び、簡単なリズム遊びを楽しむ。
人との関わり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者と簡単なやり取りをしようとする。 ・保育者と一緒に見立て遊びや再現遊びをする。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な大人や子供に関心をもつ。 ・大人や友達のやっていることをまねて遊ぶ。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・「待っててね」「あとでね」などの言葉掛けが分かり、行動する。 ・タオルなど自分と友達の持ち物を区別する。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・スプーンを正しい持ち方で持ってみたり、自分で食べようとしていたりする。 ・排せつをしぐさや言葉で知らせたり、便器で排せつしたりする。 ・パンツやズボン、靴などを自分で着脱しようとする。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で手洗いをしようとする。 ・保育者と一緒に片付けをしようとする。 ・指先を使った遊びを繰り返す。 ・ボールを蹴ったり投げたりして、保育者と一緒に体を動かして遊ぶ。

<指導例>

◇ おままごとをしよう

保育者とやり取りすることを楽しむ。

手遊びや歌を歌おう！

保育者が楽しく歌ったり手遊びをしたりして楽しさを知らせながら、子供と一緒に遊ぶ。

- ・手遊び「あたま、かた、ひざ、ほん」 など
- ・身近な動物や食べ物の出てくる歌 など

<援助のポイント>

- ・物の取り合いなどで子供同士のトラブルも多くなるが、一人一人の思いを受け止めたり、同じ物を複数用意したりしながら、友達との関わりを育んでいく。
- ・子供との会話を楽しんだり、遊びの楽しさを周囲の子供とも一緒に感じたりしていく。
- ・落ち着いて遊べるようになってきているので、じっくりと遊んでいる様子に関わり満足感や喜びを感じられるようにする。

<家庭との連携>

- ・個人差が大きくなる時期なので、一人一人の発達に合わせた対応をすることが大切であることを知らせていく。
- ・感染症が流行する時期なので手洗いをしっかりと行い、健康状態を把握できるよう連絡を取り合う。
- ・友達への関心が芽生え、関わって遊ぶようになってくる。物の取り合いやけんかなど、時にはぶつかり合うことも成長の表れであることを知らせていく。

1歳児 V期（1月～3月）

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの様々なことに興味や関心を示し、探索活動を十分に楽しむ。 ・保育者と一緒に、興味のあることや生活経験を取り入れた簡単なごっこ遊びを楽しむ。 ・保育者の手助けを受けながら、簡単な身の回りのことをしようとする。
学びの芽生え	思考 <ul style="list-style-type: none"> ・保育者との関わりを通して言われたことの意味が分かり、その通りに行動してみる。 ・大人をまねたり、自分の好きな役になったりすることを楽しむ。 ・身近な小動物や植物を見たり触れたりして、周囲の様々なことに関心をもつ。
	言葉 <ul style="list-style-type: none"> ・したいこと、してほしいことを、しぐさや簡単な言葉で伝えようとする。 ・身の回りのことに興味や関心が広がり、「これなあに」などと聞いたり、答えてもらったりすることを喜ぶ。
	創造 <ul style="list-style-type: none"> ・絵本や紙芝居を読んでもらい、繰り返しのある言葉に興味をもつ。 ・保育者と一緒に簡単な手遊びをしたり、知っている歌を口ずさんだりする。 ・音楽に合わせて体を動かし、自分なりの動きを楽しむ。 ・歌や音楽に合わせて、音の出る手作り玩具などを鳴らして遊ぶ。
人との関わり	協同 <ul style="list-style-type: none"> ・好きな友達ができ、そばに近寄ったり一緒にいたりする。 ・保育者や友達と簡単なごっこ遊びをする中で、友達を感じる。
	信頼 <ul style="list-style-type: none"> ・興味をもったことを、何でも自分でやってみようとする。 ・友達や保育者の名前を呼び、親しみをもって関わろうとする。
	規範 <ul style="list-style-type: none"> ・保育者に促されて、生活の中の簡単なきまりや危険なことなどに気付く。 ・自分の物と人の物の違いに気付くようになり、自分の物の置き場所が分かる。 ・保育者の援助を受けながら、少しずつ納得して物の貸し借りをする。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣 <ul style="list-style-type: none"> ・スプーンを正しい持ち方で持とうとし、最後まで自分で食べようとする。 ・保育者や友達と同じ場で、楽しく食べる。 ・手助けを受けながら簡単な衣服を自分で着脱しようとする。
	運動 <ul style="list-style-type: none"> ・排せつをしぐさや言葉で知らせたり、便器で排せつしたりする。 ・体操、追いかっこ、蹴る、投げるなど、全身を使った遊びを楽しむ。 ・ボタンはめ、ひも通し、クレヨンを扱うなど指先を使った遊びを楽しむ。 ・散歩や固定遊具での遊びなど、戸外で体を動かして遊ぶ。

<指導例>

◇ 今日のごはんは何か

食べることを楽しみにしながら食事をする。

自分でできるもん

パンツやズボンを自分ではく、手洗いをするなど、保育者に声を掛けられて自分でやろうとする。

<援助のポイント>

- ・基本的な生活習慣の形成には個人差を考慮し、落ち着いた雰囲気の中で繰り返し経験させていく。また、自分でしようとする気持ちを大切にしながらさりげなく援助し、自分でできた満足感を味わえるようにする。
- ・子供の伝えたい気持ちを感じ取って言葉にしたり、状況を見て言葉を掛けたりしながらやり取りをし、会話の楽しさを伝えていく。

<家庭との連携>

- ・連絡ノートや登降園時に園での子供の活動の様子を知らせ、子供が様々な姿を見せながら成長していくことの喜びを伝え、共感していく。
- ・身の回りのことを自分でしようとする姿が見られたら、その姿を伝え、家庭でも子供の成長として受け止め、見守ってもらえるようにする。また、服や靴などは自分で着脱しやすいような物を準備してもらるように、具体的な見本などを示して伝えていく。
- ・生活や遊びの中で言葉のやり取りをクラスだよりなどで紹介し、家庭でも簡単な会話を楽しんでもらうようにする。